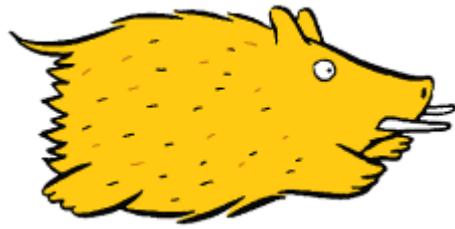




トマソン隊じゃないから



うさぎ編

by うさお

またまたまた番外編でございます。今年ほうさぎ年でうさおの時代となりますが、うさおは兎の皮をかぶった猪です。……。うっ、～怖～い～。

前日にアドマッチック天国を見たばかりだったのに、次の日には見に行っちゃいました。調神社を…。

調神社と書いて「つきじんじゃ」と読みます。「つき」と来れば連想するのは「ウサギ」ですね。そうです、この神社の御神体は「ウサギ君」なのです。

処は埼玉県浦和市、浦和駅から歩いて15分くらいの処。うさおたちは足腰が弱いから車で来ちゃったけれどね。しかし、着いて見て吃驚、なんだ、この人の波は。延々駅の方に数百メートルに及ぶ人の列が……。流石にすぐ並ぶ気は失せて、(いや、空いていれば境内の屋台で焼きそばを食べたり、おでんを食べたりと勝手に想像していましたので…)浦和の街の方へ食事をしに行くことになりました。



並んでいる通りの反対側はガラガラ、でもこの床しい香りのするお宅がありました。神社にお参りをした人たちが、この家の中を覗き込んでにっこりしている。そこには、なんと節子がおりました。(うちの倅の彼女が飼っていたウサギが「節子」と言う名だった。それからうちではウサギのことを「節子」と呼んでいます。)

暖かそうにしてウサギがすやすやと寝ていました。



兎にも角にもお茶が飲みたいとはCaccoの希望、「カフェ ド カファ」に入りました。

出てきた親父は何だか「健ちゃん」のような趣味人ぽい人だった。

だからね、気難しそうで、こだわりそうで、ちよいと取っ付きにくそうだ。

こちらの一挙手一投足を見られた挙句、瞳をきらんとさせて、「あんた、出身は横浜だね!」と言われそうだ。

アメリカンとおずおず言ってみる。もし、



「何?」と言われたら、「じゃあなく、コロンビア?…かな?…」と意見を翻す予定だ。幸いにも、アメリカン・コーヒーが来た。

ついでなので浦和の駅前に行ってみました。ここには「浦和うなこちゃん」の像が建っている。おにぎりの化身ではなく、ウナギの化身だ。江戸時代に中山道を旅する人々にウナギの蒲焼が提供されたのだとか。蒲焼の発祥の地とも言われています。ならば食べたいなあ。ウナギ。幸いなこと

にと言おうか、不幸にと言おうか、この日は浦和の鰻屋さんが皆お休みでした。散財しなくて良かったと…残念だったなあ。ちなみにこの像の原作者は「やなせたかし」でした。

さて、調神社の行列に並びます。牛歩すること一時間半、ようやく境内へ入りました。入り口には二羽のウサギが狛犬よろしく睨みを利かせています。う〜ん、迫力無いなあ。

でも来たねって感じになります。大きなネズミのようです。





更に流れに乗っていると左側に衣冠束帯の像が見えます。有名な人？早速、Cacco遊軍隊に撮影してもらいます。

ここだけの話ですが、女性と子供は列にじっと並んで待つことを嫌います。連れがあるとその人に列の順番を託し、物を見に行ったり、食べ物を買ったりするのですが、周りの男性もそれを一様に黙って見えています。文句を言いたそうなのはおばさん達ですが、自分の子供たちもうろうろしているので、ぐっと我慢をしているようです。実はこの遊軍がとっても便利なんですけど、少し他人の目が痛いなあ。

さてと、「前調神社禰宜吉田英一」とある。あれ、有名な人じゃ無いじゃん。この神社のプライベートな偉人じゃん。何か損をした気分になってきたぞ。それも平成だぞ。

気を取り直して歩を進めると、左手に手水場がありました。



この手水場にも大きなウサギがいます。こいつがひしゃくで水を汲んでくれます。「どうぞっ」

誰だろうなあ、こんなの考えるのは。江戸時代からあるって言うので昔からこんなものなんだろうけど、それにしてもリアルだなあ。とっても可愛いけどね。



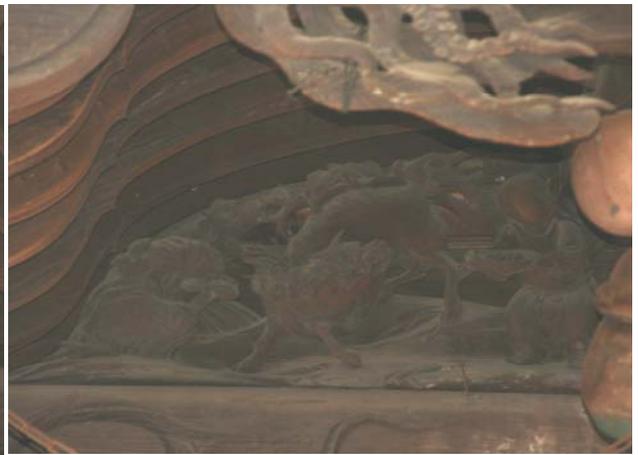
じゃあ、もう少し歩を進めてみよう。本殿にきました。いる、いる、ウサギが……色々なところにウサギが隠れているのよと言うのは、前に並んでいた品の良い奥さんの言葉？？？…。

こんな話、前にもTVで見たような気がする。なにしろつき調神社だからウサギを全部探すと、すごい「つき」が付いてくるんだろうな。

しばし、本殿の彫り物をご覧ください。



鈴の後の羽目板にも、なにやらウサギが隠れているような…そんな雰囲気か…



前列の奥さんはしたり顔で「確か三箇所あるのよねえ～」と連れ合いと話していました。三箇所？四箇所ならわかるけど…後ろの破目板はありゃ、うさおの間違いか…。

二礼二拍一礼のお参りを済ますと、干支の土産物(違います、社務所の縁起物)を買に行きました。Caccoに手を合わせて拝んではだめだよと言っておきましたが、やはり習慣ですのでつい手が合わさりますね。

可愛いウサギの土偶が売ってありました。

2cm角くらいの大ききで何となく置いとくだけで御利益(運が付きそう)がありそう。面白いことに、このウサギのフォルムは参道にあった狛ウサギにそっくりだ。耳が短く頭が大きい、独特の形だ。どちらかと言うとヌートリアかプレーリードックのようだ。少しふてぶてしさが籠るのだ。

境内には神楽殿があり舞台の背景の置いてある大きな絵馬に、大きなウサギが描かれている。これでもう幾つのウサギを見つけたことになるのだろう。ますます、期待が高ま





っちゃうね。この絵馬はお正月だけのものか、随分綺麗なものだった。

裏に回って見ると池があった。皆さんがカメラを向けている。何があるんだ？



水を吐くウサギと白ネズミのようなウサギ。これで二羽ゲットです。でもこれは歴史を感じないし、見つけてもさほど嬉しくは無い。どころか、商魂逞しいなあと思ってしまう。これは無い方が良かったかな。

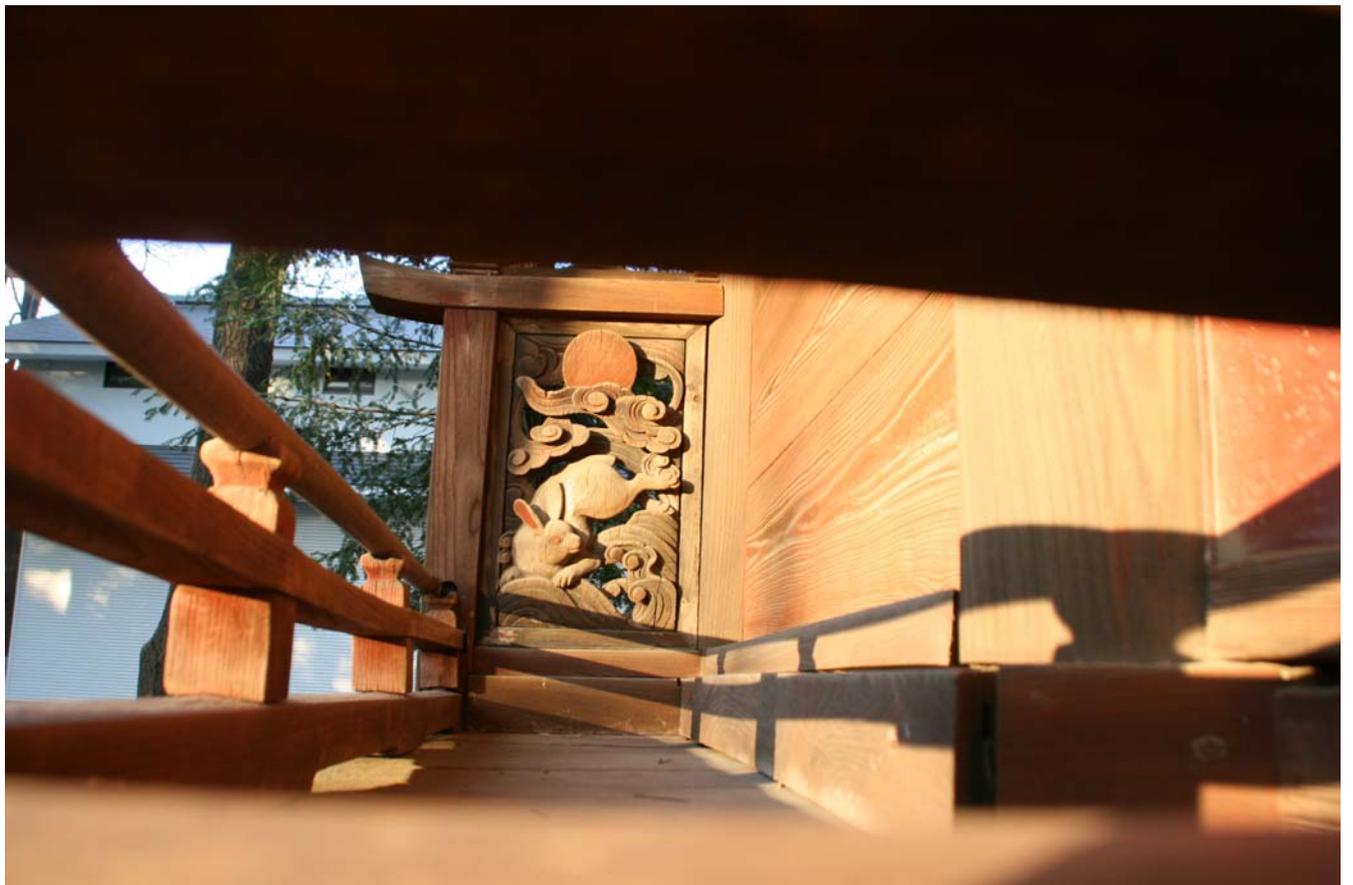
この池の畔にあった訳の分からない不思議な石像。これも無かった方が良かったか。バットを持っているから野球の神様か？うちの倅に教えてあげようかな。未だに野球一筋なのだ。



この池は瓢箪池でした。そこのどろどろ橋を渡っていくと、そこには調神社の本社があります。鎮守の森のこじんまりとした小さな社です。

本殿の大賑わいと違い、これぼっちの人しかお参りしていません。本殿のお参りに2時間も歩いていたので、足が棒のようになりぐったりです。

拝殿をみると、こちら小ぶりながらウサギだらけのモニュメントが沢山ありました。



本殿と同じ正面の額の付近に跳ねているウサギが二羽彫られていました。左側のウサギはウナギ犬みたいでぬるっとしていて、浦和っぽいものでした。おおっ、ウサギとウナギ、何となく似ている。

脇の回廊のところにも見事なレリーフが…。江戸時代の様式美とウサギのやけにリアルっぽさがミスマッチ



江戸時代のものと言われていますし、この本殿がオリジナルと聞いていますので、数百年経った彫り物ですね。風雨に晒されている割には、色も形もはっきり残っており素晴らしいです。

これもウサギかと思って撮っておきましたが、これは違うようですね、ただのキツネのようです。って、罰あたりだなあ。



でこの神社の面目躍如たりです。

でも気がついちゃいました。このウサギは今までこのお社に祭られていたウサギさんと趣を異にします。

鼻がリアルで何処となくライ隊員とそっくりですし、手の形もリアルです。



本殿の横の破目には、こりゃあ鶏だな。どちらも数えるときに「羽」と言う繋がりかな。



浦和の街に飾られていたウサギ・グッズ。何だか可愛くないのと白い亀みたいに見えるのが…う〜ん…だね。

丸井の中に飾られていた調神社の宣伝ポスター。これも何だかな〜あ。

センスが…。ツキウさぎ…眼が大き過ぎだよ。飾られていた絵馬は、「兎」と「月」でした。